

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	一次予防事業普及啓発・支援事業			事業コード	2411
所属コード	153000	課等名	健康福祉課	係名	健康推進グループ
課長名	佐藤 政敏	担当者名	竹田 福子	内線番号	4400-143
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	14
	基本事業	高齢者福祉の充実	コード	2
予算費目名	介護保険費特別会計 (06) 03 款 01 項 04 目 001 一次予防事業普及啓発・支援事業費			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 18 年度～	
根拠法令等	介護保険法			

(2) 事務事業の概要

在宅高齢者が健康で過ごすことができるように、健康の基本である食生活についての教室を開催し区民の健康増進を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

玉山区では高齢者世帯が多く、食事の準備をしている人も多かったため、平成 18 年度から介護予防の一般高齢者施策として開始した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

8 地区で開催し、平成 25 年度は、130 人の参加であった。

生活習慣に関するアンケートは 8 地区で実施し、106 人の回答があった。毎日、時々食事の準備をしていると答えた人は 83.0%、準備をしない人は 16.0%で、男性が多かった。

健康づくりのために実践していることについては、三食きちんと食べている、薄味を心がけている、日頃から体を動かすように心がけていると答えた人が多かった。（複数回答）「自分は健康だと思う」と答えた人は 56.6%と半数以上は健康であると答えており、前年度より 21.6%増加した。前年度は「健康だと思う」、「思わない」、「どちらともいえない」の選択項目を今年度は「はい」、「いいえ」にしたため、明確に選択できたのではないかと思われる。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市民

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 参加者数	人	147	123	160	130	160
B						
C						

(3) 平成 25 年度に実施した主な活動・手順

骨粗しょう症予防「コツコツ食べてめざせ！丈夫な骨」をテーマに区内 8 会場で講話と調理実習を行った。

保健推進員の協力で地域への周知は、健康相談のお知らせと共に地区回覧にて参加者を募り講話と調理実習を行った。8 会場でアンケート調査を実施した。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 開催回数	回	7	8	8	8	8
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

高齢者の低栄養を防ぎ、高齢者が地域で健康に暮らすことができる。
自主的に健康づくりに取り組む人たちを増やす。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 参加者数	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	人	147	123	140	130	160
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	87	88	88	88
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	87	88	88	88
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	111.5	111.5	143.5	143.5
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	446	446	574	574
計	トータルコスト A+B	千円	533	534	574	574

備考 栄養士従事 4h×8回=32時間, 材料発注, 事業準備等 4h×8回=32h, 保健師従事 4h×8回=32時間, 起案+財務関係事務等 7.75h×2日+4h×8回=47.5 ※25年度は, 栄養士の材料発注, 事業準備等 4h×8回=32h追加

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：一般高齢者が健康を維持することにより，自立した生活を送ることができ，地域で安心して暮らすことにつながる。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：類似事業がない。

③ 対象の妥当性

妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

理由：区民を対象とした食生活，食育に関する事業がなくなる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

アンケート結果から，参加者の83.0%が毎日，時々食事の準備をしていると答えており，家庭でも実施したいという声が多かった。また，今後の健康づくりのために生活改善を実施したいと答えた人が84.9%であったことから事業は有効である。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

地区回覧や保健推進員の声がけなどで希望者を募り，開催にあたっては，玉山区内で順次開催している。主食(米)は，参加者持参としている。

(4) 効率性評価

実習の材料代等最小限の予算で実施している。主食（米）は、参加者持参としている。従事者等最小限の人数で対応している。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

健康で自立した生活の基本は、食生活が基本となることを参加者含め家族にも啓発・普及するよう継続して行っていく。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

地域によっては参加者が固定化しているが、健康相談と合わせ老人クラブやサロン等に介入し、多くの高齢者に受講してもらうように工夫している。今後も継続して保健推進員や食生活改善推進員の協力を得ながら地域への啓発を図っていく必要がある。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市民の健康増進を図るため、栄養教室を開催し高齢者及び家族が食生活を通してそれぞれが、健康づくりに取り組むよう支援している。

教室は、健康の源である食を通じた健康づくり事業であることから継続していく必要がある。